

# 明日に 向かって

明日に向かって  
多治見陶都ライオンズクラブ  
広報誌  
1999

Vol.

9

題字:L.丹羽浩康

LIBERTY・LEADER・LABOR・LOYALTY・LAW・LIFE・LOVE



We Serve を We Volunteer ^

# チャーターナイト記念例会講演要旨

講師 山田 實 紘

## ① クラス会費のあり方

会費は本家アメリカでも年300ドル。日本の年会費は20万円から25万円、いろいろの募金を含めると30万円ほどかかる。高い会費が会員数の減少につながっている。金銭的に肥満化した日本ライオンズは、スリム化にむけて考え直す時が来ている。今が一番奉仕活動を必要としている時である。ライオンズスピリットである奉仕の原点に復帰する時である。年会費は12万円位が良いのでは？

## ② クラス会員数の巨大化の問題

国際本部では1クラブ40人が適正数としている。学校の授業を見ても分かるように、30名から40名の人数が気心も知れて良い。肥大化すると出席率も低下し協調体制が取り難く派閥ができドンが生まれクラブもまとまりがなくなり衰退してマンネリ化する。会員増強に力を入れるのであれば自分のクラブに新入会員を入れるのではなく新しいクラブをエクステンションする必要がある。そうして年に何回かは合同例会を開けば良い。多治見陶都ライオンズクラブの57名は適正である。

## ③ 地区分割の必要性

LCIFには何百億のお金があり、その50%が日本のお金である。その中で334B地区が一番多くのお金を出している。しかるに全世界740名のガバナーの内日本からは31名しか選出されていない。全世界の会員数からすると現在の3倍の90名が選出されても良い。そうすれば3倍の意見がでて、LCIFのお金を有効に私たちの奉仕に使う事ができる。ガバナー選出最小条件は35クラブを有し会員数が1250名を超える事である。1地区5000名を有し巨大化した日本のクラブは分割する必要がある。分割するとガバナー・キャビネットが早く回ってきて新陳代謝が進み若い人の意見が反映される。現在、三重県が34クラブで後一つでガバナーを出す事ができる。何とかしたい。

## ④ PRの新しい方法

ライオンズクラブが特権意識からの閉鎖的な自己満足的なアクティビティーに終始していたため、PRが上手くない。アクティビティーを行う時は、必ずTV局・新聞社に連絡する。反応が無かったり、市民の参加が無いようなら自己満足的なものであると反省する事が大切である。一つ忘れてならない事は、市民の参加がある場合、ライオンズメンバーがリーダーシップを執る事である。それが本当の意味でのステイタスである。

## ⑤ リーダーシップの新しい考え方

現在は新新人類が成人として社会で力となっている時代です。旧態依然の「俺についてこい」式のリーダーシップでは牽引ロープが切れてしまうのが関の山、誰もついてこないでしょう。ライオンズクラブも同じ事。常にオープンにし、全員参加型のクラブ運営を行い、チェンジにチャレンジ出来る人がリーダーシップをとるべきである。

他にも沢山のお話がありましたが聞き漏らしたりした部分もあり、申し訳御座いません。皆様も時間が許すならばもう一度講演資料に目を通して見て下さい。

過去と未来を見つめるライオンの狭間でチェンジにチャレンジを重ね、トップダウンではなくボトムアップが可能なライオンズを築くために、山田實紘ライオンの益々のご活躍を期待いたします。



# 視力ファースト・アイヘルスプログラム・アイバンク

## この違い説明できますか？

私たち自身の体です。少しばかり考えてみませんか。

### ◎視力ファースト

LCIF（ライオンズクラブ国際財団）のサポートを受けて1990年よりスタートした視力保護を重点項目とする長期事業。視力ファーストの意味するものは、目が一番大切ですよという事らしい。この運動の原点は1952年かのヘレン・ケラー女史の（ライオンズよ、盲人のナイトなれ）という呼びかけに始まる。LCIFは視力ファースト・キャンペーンを全世界で展開し1億4千万ドル以上集めました。このうちの三分の一以上が日本からのもので、これまでに5大陸、46カ国で240のプログラムに総額4500万ドル以上の資金援助がされております。

### ◎アイヘルスプログラム

視力ファーストの事業はその国々の状況により異なります。発展途上国においては医薬品や医療施設の提供を受けていますが、日本においては啓蒙と教育を主眼に置いた事業展開をおこなっております。その指針となるのがアイヘルスプログラム。

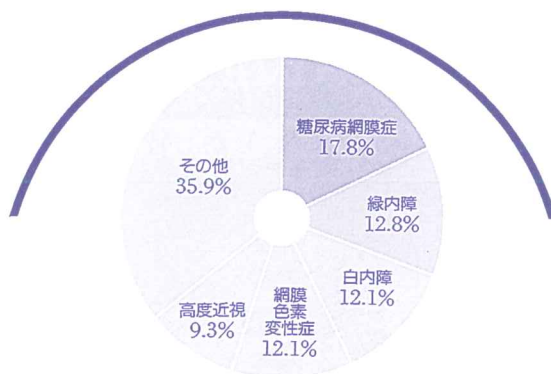
日本においては毎年約16000人が失明しております。最も多い途中失明原因は糖尿病網膜症で年間約3000人、次に緑内障で約2000人。この二つは、多くの場合自覚症状に乏しく、本人の気づかぬうちに病状が進行し手後れになるという怖い病気です。したがって日本の視力ファーストでは、糖尿病網膜症と緑内障に関する健康教育・啓蒙活動が主な目標となり、その「目の健康（アイヘルス）」についてのプログラムということで、日本ライオンズ・アイヘルス・プログラムと名づけられました。

### ◎アイバンク

病気やけがのために角膜がにごったり傷ついたりして視力を失った人たちが日本にも約2万人います。アイバンクに登録された人の角膜を移植する事により「目に光を取り戻そう」と呼びかけているのが“目の銀行”アイバンクの活動です。「私が死んだら角膜を提供したい」という意志のある人なら、誰でもアイバンクに登録できます。ただし家族の同意が必要です。登録した人が亡くなった場合、摘出手術は早い程よい（8時間以内）ので、登録したアイバンクへの連絡を忘れないようにして

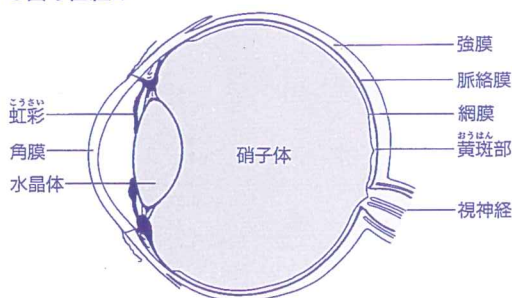
下さい。移植に使われる角膜は感染症にかかっている場合を除き、濁りが無く透明であれば、年齢・近視・乱視などに関係なく提供する事ができます。アイバンクは全国各地に50ヶ所あり、登録された方115万人、献眼された方22798人（1997年11月末現在）にのぼっています。ライオンズクラブは、日本全国のアイバンクを支援するとともに、クラブメンバーも率先してアイバンクに登録し、献眼によって多くの視力障害者の方に「光」を贈っています。

●日本の失明原因(年間約16,000人が失明)



1994年 厚生省糖尿病研究調査班データより

●目の仕組み



# 会員訪問

寺澤美術鑄造研究所

## 寺澤孝明氏



日展において特選を受賞された寺澤ライオンを訪問して見たいと思います。  
まずは質問

### ①子供の頃はどんなお子さんでしたか？一番の思い出は？

一日中山に入って、木に登ったり木の実を食べたり、とてもワンパクでした。思い出は粘土山の池で遊んでいて池に落ち出られなくなり引きずり出してもらい命拾いをした事です。

### ②小学校の頃の図工の成績はどうでしたか？

良くなかったですね。しかし竹とんぼとか遊び道具を作るのは誰よりも上手かったように思います。

### ③いつ頃から彫刻に興味を持ちましたか？一番好きな作家・作品は？

15～16才頃から興味を持ちました。好きな作家はロダン。好きな作品は北村西望の「防衛」。

### ④この道を進もうと思われたのはいつ頃からですか？きっかけは？

17～18才の頃、趣味で粘土をいじっていて市民展に出品し、賞を頂いた事。

### ⑤この道に入って一番良かった事は？

多くの人たちとの出会いの中で少しずつ自分が成長していった事。まだこれからだが！

### ⑥この道に入って一番つらかった事は？

今のところ辛いと自覚した事が無い。好きな事だから辛いとは感じないが、とても苦しくなってくる事がある。精神的なものだが！

### ⑦御自身の作品の特徴は？

最近男性像が多いが、青年のモデルの力強さと、張りのある筋肉と、そのくぼみの量感などを感じ取ってほしい。

### ⑧私たち素人が彫刻作品を見る上での注意点・ポイント？

人間をモチーフとして創っているのだが、人間から伝わってくる緊張感は、一人一人感受性が違うので難しい。作品から伝わってくる感動をじっくりと味わってほしい。良い作品なら、誰が観ても伝わってくるものがあるはずです。

### ⑨最後に御家族を紹介して下さい。

妻=久美子 長女=彩美(あやみ)  
次女=貴美(よしみ) 長男=大作

それではここに寺澤ライオンの代表作二点をご紹介します。じっくりと観て下さい。

①1998年 第30回日展特選 男…18才(左)

②1998年 日彫賞受賞 スローイング(右)

